

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月13日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100073		
法人名	社会福祉法人 親愛会		
事業所名	グループホーム ウィステリア倶楽部	ユニット名	西館
所在地	〒311-3115 茨城県東茨城郡茨城町前田1707-349		
自己評価作成日	平成28年9月27日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0893100073-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0893100073-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年11月29日	評価機関 決 済 日	平成29年1月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>生活スタイルの全てを本人主体として捉え、ご利用者様がどのように形なら自分らしく過ごして頂けるのかを、聞き取りや日々の様子観察の中から把握し、「今どうしたいか」「今、何が好みか」「今、楽しく過ごせているか」多くの選択肢を用意することで、その方の充実と満足、安心した時間の積み重ねをお手伝いできるような心がけています。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は目の前の道路を隔てて水戸市と茨城町のはざまに位置しており、居間兼食堂や居室は日あたりが良く、利用者が穏やかに過ごせる環境となっている。</p> <p>「地域に貢献し、地域に育てられ、地域と共に歩みます」との理念を掲げ、行事計画担当係や地域連携係など各種係を設け、地域住民との交流や外出などを支援しているほか、利用者一人ひとりの趣味や嗜好に合わせてお酒や喫煙なども、健康面を配慮しながらなるべく今までと変わらない生活が送れるように支援している。</p> <p>事業所では行事食のほかに、週1回のスペシャルランチや月1回のスペシャルディナーの日を設け、食事が楽しみとなるよう工夫して提供している。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域に貢献し、地域に育てられ、地域と共に歩みます』を理念に掲げ、事業所理念をユニット内に掲示すると共に、実践につなげられるよう、地域住民との合同研修、地域住民への事業所開放、地域イベントへの参加をしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、各ユニットに掲示するとともに、事業報告書や事業計画書作成時、2ヶ月に1回の職員会議時などに確認して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を中心に、地域の行事などの情報を得ている。地域の輪投げ大会に参加、公民館での展示会を見学、いばらきまつり等、積極的に参加している。また、地域住民を事業所の祭りに招待するとともに、模擬店の販売などで祭りに協力してもらうなどして、地域との交流を図っている。また、日曜日のデイフロアを開放し、サークル活動などに事業所を活用してもらっている。	毎年10月に事業所で開催する「ありがとう祭」では、多数の近隣住民の参加を得ているとともに、模擬店の販売にも協力してもらっているほか、芋煮会や流しそうめん、カラオケサークル、2ヶ月に1回の地域住民と一緒に学ぶ、地域合同研修会などにも多数参加を得ている。 事業所の地域連携係が、アルミ缶やエコキャップを回収して区に寄付するなど、地域と良好な関係を築いている。 傾聴や折り紙、絵手紙などのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エコキャップ、アルミ缶の回収と寄付を継続して行なっている。研修会などにおいて、地域住民と共に学ぶ機会を作っている。（腰痛体操、救命救急、感染症予防）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立て、町職員、区長、民生委員、高齢者クラブ会長等町内代表、家族代表に参加していただき、2ヶ月に1回地域の公民館で開催している。毎回、入居在籍者数、実施した活動（活動の様子の写真をつけて）今後の活動予定、事故など報告を行ない、感想や意見等をサービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議は家族等の代表や町職員、民生委員、区長、副区長、地域住民、施設長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、委員からは率直な意見を取り入れて情報交換をするほか、地域のイベント情報を得て参加することができた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政の代表者が毎回参加して下さっている。その他、法令等での疑問点や、重大事故発生時などには行政に相談・報告を行っている。	町担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、要介護更新申請書類の提出や事業所の状況報告などに直接窓口に向いて情報交換をし、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、居室・建物の施錠を含め行わない事を前提に取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行なう場合には、家族の同意の上、期間を定め、最低限度の範囲で行なうこととする。また、定期的に必要性や方法、解除に向けて検討している。期間内において、身体拘束を行なわなければいけないような対象者はいない。	管理者や職員は、月1回のユニット会議時に身体拘束についての研修を盛り込むなど、日頃から身体拘束をしないケアに努めており、日中は見守り支援をして玄関の施錠はせず、夜間のみ安全のため施錠をしている。 やむを得ず身体拘束が必要になった場合に備え、同意書等の書類一式を備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や、全体研修において虐待防止に関する研修を行なっている。言葉かけのニュアンス一つでも虐待となりえる事を理解し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人がついているご利用者があり、後見人とは密に連携している。認知症の方の権利擁護に向けて、後見人と話し合う機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を使って、十分に説明し、疑問点について質問を受け、答えたうえで契約を行なっている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時ご意見箱を設置している他、運営推進会議には、毎回ご家族代表に出席して頂き、御意見を頂いている。また、月1回家族等に手紙や面会時に利用者の近況を伝えながら、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。指摘があれば、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・グループ会議・全体研修などの機会に自由に発言する機会を設け、提案があれば、その後の事業運営に反映させている。	ユニット会議や全体研修、グループ会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、管理者は日頃から話し易い雰囲気づくりを心がけており、職員から出た行事の案などを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて施設長が職員の努力や実績・勤務状況について把握し、法人の理事長に報告している。積極的に正社員に登用するなどの取り組みを法人全体で行なっている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に同業者や他職種の講師を招き、内部研修を実施している。また、外部の研修に対しては希望者を募り、機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設長は研修会などの機会に、日常的に他事業所の同業者と情報交換している。相互訪問を行ない、お互いに良い所を学び、サービス向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅訪問し、事前調査を行なっている。聞き取りの中で、本人の意向をくみ取ると共に、家族の協力を仰ぎながら本人の安心できる環境を作り、自宅での生活の延長となるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時に家族の不安や要望の聞き取りを行ない、その事柄に対応していくことでより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査に聞き取りした事柄を考慮しながら、客観的にどのようなサービスが必要か見極め、他サービスが必要な際は勧めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の空間という事を認識し、言葉かけや立ち振る舞い、服装などに気をつけている。徐々に家族のような関係性を築けるように努力している。必ず、本人はどうしたいのかを確かめながら、本人にできそうな事や興味・関心のある事について一緒に取り組みをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にとりながら、家族の意向を確認している。本人にとって嬉しいのは家族の面会である事を忘れずに、ご面会頂いた時には、感謝の言葉をかける事を忘れずに対応している。ご自宅への外出支援も積極的に行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会しやすい環境作りを心がけている。また、本人が外出を望む場所があれば、要望を聞き外出支援を行なっている。行きつけの床屋や昔から通っていた定食屋へ外出し、馴染みの方との会話を楽しんでいただいている。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 馴染みの理美容室や店での買い物、外食、外泊、墓参りなどに家族等の協力を得ながら支援し、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性をみて、外出時の参加メンバーや日常の席順を配慮したり、外出時の作業（洗濯物畳み等）でご利用者が自然と関わり合いをもてるように、職員が調整役となって支援している。その中で、お互いに声を掛け合い、心配する姿、できない所を助ける姿、談話し不安を解消する姿がみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	期間内に契約終了者なし。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初回または定期的にあセスメントを実施し、日々のかかわりの中で、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認しご利用者の意向を確認している。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から情報を得るようにし、その方の立場に立ってよりよい方向性を検討している。	職員は入居時の聴き取りや個人記録のほか、利用者との日々の関わりの中で希望や思いを把握するとともに、申し送りノートや個人記録、ユニット会議などで共有している。 意思疎通の困難な利用者の場合は、家族等に相談したり、表情や仕草などで思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に、生活歴や環境の聞き取りを行なっている。また、新たに必要な情報については、入居前のサービス提供者等からも情報収集を行なっている。生活が始まってからも、本人との会話の中や面会に来られた方々との話から新しい情報を得、共有し実践している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの居室担当者が主になり、状態の把握に努めている。また、その情報を共有し異常の早期発見に努めている。小さな変化に対しても職員同士で話し合い、状態の把握と共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族その他関係者の意向・意見をケアプランに反映させるように努めている。状態の変化に応じ、カンファレンスで協議を行ない、介護計画を見直し、現状に即した計画作成に取り組んでいる。又、決められた事が実行できるよう内容をカードックスに貼り、それを基に記録し、次のモニタリングへのベースにしている。	介護計画は家族等の意見や要望のほか、管理者や担当職員でカンファレンスで話し合っって計画作成担当者が作成し、面会時に確認して家族等から同意を得ている。 モニタリングは毎月行い、短期目標は6ヶ月、長期目標は1年に設定し、基本的に1年毎に計画の見直しをしている。 利用者の状態等に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、バイタルサインや体調の好不調のみならず、表情やちょっとした様子の変化も記録し、その情報を職員全体で共有している。計画の見直し時にもその情報を利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の意向を踏まえた上で柔軟に対応し、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館でのイベントなどには積極的に参加している。また、地域の団体からボランティアなどで事業の手伝いを頂き、地域と協働して施設運営している。傾聴、折り紙、絵手紙ボランティアを定期的に依頼し、好みの活動に参加していただいている。ボランティアの内容も利用者のニーズにより歌を取り入れたりと変化している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設の協力医療機関に捉われず、本人、または家族の意向に添った医療機関への受診を行なっている。歯科医等においても本人及び家族の意向を基に受診を行なっている。訪問歯科の案内もし、外出困難な方にも適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に利用者や家族等に、希望するかかりつけ医への受診が可能な事を説明している。受診の際はかかりつけ医への受診も含め、殆ど職員が付き添っており、受診結果は家族等に電話や面会時のほか、個人別に事業所便りに掲載して報告している。職員間は申し送りノートや個人ファイルに記載して共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。介護職員はバイタルサインなどの異常以外にも、些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、日々の健康管理に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には直ちに介護サマリーを作成し、渡している。入院中であっても、本人の情報収集に努め、医療関係者と連携を図り、早期退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設においてできる事・できない事を明確化し、家族に伝えている。重度化した場合でも主治医が施設での生活が出来ると判断すれば、医療機関支援を受けながら、できる限り援助し、施設での生活を支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、入居時に家族等に説明をして書面にて同意を得ている。 看取り介護を行なう場合、早期から本人や家族等関係者と話し合いの機会を作り、方針の統一を図っていると同時に、看取りの段階に入ったとわかりつけ医が判断し、24時間連携体制が取れている医療機関の場合には、状況の変化に応じた繰り返し話し合いをし、合意を得ながら看取り介護を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、状況に応じた対応が出来るようにしている。研修会において、年1回、応急手当や初期対応の訓練を行ない、振り返りをしながら、実践力の向上に努めている。又、急変時の連絡表を作成し、速やかな連絡・報告・相談ができるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練を通して基礎力をつけ、消防隊員から助言等を頂いている。又、運営推進会議でも災害時の協力体制について検討している。備蓄の食糧や飲料水のチェックやご利用者様に適した物となっているかの検討を定期的に行なっている。	1回は消防署立ち会いで、火災想定や夜間想定避難訓練を年2回行ない、訓練後に課題について話し合うとともに、訓練の記録を残しているが、今後も予想される地震などによる避難訓練を行なうまでには至っていない。 災害に備えて米や水、食料品などを一覧表を作成して日用物品係が管理し、備蓄している。	地震想定など、火災以外の訓練も行なっていくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを忘れず、常に敬いの気持ちをもって、その方のその時の世界観を大切にし、声かけや対応を心がけている。親しいことと、慣れ慣れしいことの違いを考え、相手の立場に立って対応している。	グループホーム会議時にプライバシー保護に関する研修を行なうなど、職員は日頃から利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。 個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等から書面にて同意を得ているとともに、書類は施錠できる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が言葉に出せない思いがあることを理解し、表情を読み取ったり、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけを心がけ、常に「選択」できるサービスを追求し、選択の場面を増やし、自己決定していたくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を追求し、その方の生活リズムや希望に合わせている。一つひとつの行動を本人主体で捉え、起床から就寝までの1日を希望に添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容を意識し、着衣の乱れや髭の剃り残しなどがないように気をつけている。ご本人が好みの服を選べるよう、買い物外出支援も行なっている。歯磨き粉や石鹸、整髪材に至るまで全て同じものではなく、個人の好みでおしゃれを楽しんでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好や状態に応じ、食事内容・形態の変更、代替えの食事の提供をしている。ドレッシングや調味料を各種揃え、選んでいただいている。テーブルを拭いたり、食器洗いを手伝って下さっている。献立がわかるようにホワイトボードに書いておくため、次の食事を楽しみにしていただく雰囲気ができている。	献立は利用者の好物や苦手な物を踏まえ、自家菜園で採れた野菜を食材に取り入れたり、代替食を用意しながら法人の栄養士が作成し、職員が調理をしている。 利用者は下膳や食器洗いなどできる範囲で一緒に行なっている。 雛祭りや誕生会などの行事食のほか、外での芋煮会や流しそうめん、法人のおやきの機材を借りてのスイーツ祭り、週1回のスペシャルランチの日や月1回のスペシャルディナーの日を設けるなど、食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表にて1日の状況を把握し、その日の状況に合わせて、利用者の飲みやすい物を用意し、水分量の確保に努めている。また、一度に水分を摂ると吸収しにくいので、こまめに声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に状態に合わせた全員の口腔ケアを実施している。自分では声かけにより促している。一人ひとりに合わせ、口腔ケアスポンジやうがい薬を揃え、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個人ごとに排泄パターンを把握し、誘導する時間や声かけの回数を変えている。できる限りトイレでの排泄をお勧めし、排泄での自立に努めている。また、おむつからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツへの切り替えや尿とりパットの種類を検討を定期的に行なっている。2名の方がリハビリパンツから布パンツへの変更に成功している。	職員はチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切な声かけ誘導により、紙パンツから布パンツに改善した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により便秘を把握し、運動やマッサージなど行ない、すぐに下剤に頼らないように気をつけている。リハビリ体操時に、全身を動かし、自然な排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は清潔保持のためのみならず、楽しみであると捉え、おひとりごとに浴槽のお湯を張り替え、その方の希望に合った入浴リズムで実施している。週2回から週3回と回数を増やしたり、機械浴から個浴へ変更したり、本人の状態、希望を踏まえて支援している。	入浴は週2回を基本としているが、夏場は回数を増やしたり、利用者の希望でいつでも利用可能となっているほか、柚子湯や菖蒲湯、ショウガ湯などの季節風呂を取り入れている。 浴槽は個人浴となっており、毎回一人ひとりお湯を交換しているが、困難な利用者は併設する通所介護事業所の機械浴を利用することも可能となっている。 同性介助が希望の利用者には同性で対応したり、入浴を拒む利用者などには職員や時間帯を変えるほか、清拭や足浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動を工夫したり、その方が落ち着く環境として、照明の明るさに配慮している。また、共有スペース3ヶ所のソファは好きな時に休んでいただけるよう、クッションやひざ掛けを準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため、薬剤は厳重に管理している。薬剤の情報をカードックスに入れて管理し、全ての職員が薬剤の特徴に把握できるように努めている。新しい薬が処方された時は、内服した後の変化、効き目を観察し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や外食・外出などは、ご利用者様の意向や関係性に配慮しながら、個別や小人数での生きがい支援を行なっている。毎日決まった時間い新聞をお渡ししたり、庭での家庭菜園をお手伝いし、個人の楽しみを支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所などの聞き取りを行ないながら、「行ってみたい」「やってみてみたい」の気持ちを大切に、時には、家族などの協力を得て外出活動支援を行なっている。少なくとも月に一度は外出支援が取り入れられている。行きたい時に外出できるよう柔軟に支援している。	利用者の希望を取り入れながら毎月外出計画を立てており、車いすの利用者も一緒に普段行けないような植物園や大洗水族館、誕生日には利用者の希望を聴いて寿司屋へ個別対応するほか、買い物に同行するなど、日常的に外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、金銭を自己管理している方の見守りを行なっている。買い物や外食の時などは職員付添いのもと、会計していただいている。施設内の自動販売機も自由にご利用いただいている。ヤクルトの訪問や月2回の日用品や食料品の訪問販売も取り入れ自由に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用しての家族連絡は家族の要望を取り入れながら行なっている。携帯電話をもっている方もいる。フロアの電話は自由に使用していただいている。時期により、年賀状や絵手紙を書く機会を設け支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔保持を意識しながら、季節に応じて装飾し、外出時の写真を掲示するなど見て楽しんで貰える掲示物を心がけている。又、テレビの音が必要以上に大きくなりすぎないよう気をつけたり、ラジオを聴きたい方、音楽を聴きたい方が個別に楽しめるように配慮している。トイレの電気はいつ入っても安心なように、常につけている。	開放感のある玄関フロアにはソファを配置し、利用者同士で談笑したり、寛げる空間となっている。 日当たりのいい居間兼食堂や廊下の壁面には、職員が案を練ったクリスマスの飾り付けをして雰囲気づくりをしている。 トイレは両側に手摺を設置し、車いすでも十分な広さとなっている。 食堂には「本日の献立」を掲示してあり、利用者の楽しみとなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるフロアにはソファがあり、自由に座ったり、休んだりできるようになっている。また、ユニット入口にもソファが置いてあり、歩行中疲れた時やふと静かな所に行きたい時に落ち着いて寛げるようなスペースづくりに取り組んでいる。その為、一人ひとりが居心地の良い場所ができている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や馴染みのある小物などを持ち込んでいただいている。和室を希望される方は畳を敷いて和室を作るなどの工夫も行っている。	居室には電動ベッドやエアコン、洗面台、カーテン、クローゼット、寝具が備え付けられている。 管理者は入居時に使い慣れた物品を持参してもらおうよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類やテレビ、加湿器、位牌などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故の原因を取り除き、危険が迫るまでは見守ることで、自立を支援している。移動を妨げ転倒の原因となるため、廊下や導線に物を置かないように注意している。ご利用者の状態により、音センサーを居室に設置し、音がすればすぐに伺うことで、居室内でも安全に過ごしていただけるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ウィステリア倶楽部

作成日 平成29年1月1日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	運営に関する利用者・家族等意見の反映において、アンケートを行ないでた意見等について、家族への周知と共有	運営に関する利用者・家族等の意見について、運営にどのように範囲しているか家族へ伝えいくことで、より施設への理解を深めていただく。	年1度行っている無記名のアンケート結果の内容を含め、その他、意見・ご要望があった内容、その後の対応についても家族会の場で報告を行なっていく。	H29. 1 ～ H30. 12
2	13	災害対策について、地震想定など、火災以外の訓練の実施。	定期的な訓練の実施により、災害発生時に行なうべきことを理解し、行動に移すことができる。	年2回行っている消防訓練時に火災以外の地震等想定した火災訓練の計画、実施。	H29. 1 ～ H30. 12
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。